

平成 28 年度 8020 運動推進特別事業 事業報告

○青年期における歯と口の健康サポーター養成事業 (一般社団法人大阪府歯科医師会委託事業)

1 事業目的

大阪府内における大学・短大・専修学校（以下「学校」とする）における保健担当者「歯と口の健康サポーター」として養成し、「歯と口の健康サポーター」が学校において、学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけを行うことにより、学生の歯科口腔保健の意識向上を図る。

2 事業結果

2-1 歯と口の健康リーダー連絡調整会議の実施

平成 28 年度事業の実施に当たり、歯と口の健康リーダー（地域における公衆衛生事業の中心的役割を担う歯科医師）と有識者（歯と口の健康サポーター養成プログラム検討会委員）の間で、歯と口の健康リーダー連絡調整会議を行った。

○「歯と口の健康リーダー連絡調整会議」概要

【開催日時】平成 28 年 10 月 4 日（火）17 時～

【開催場所】大阪府歯科医師会

【協議・説明内容】

(1) 平成 28 年度事業実施について

(2) 歯と口の健康サポーター養成研修会について

【講師】大阪府歯科医師会理事 山本 道也

- ・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
- ・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法
- ・「歯と口の健康サポーター養成研修会」の開催方法
- ・歯科口腔保健の重要性についての動機づけの方法
- ・事業施設実施地域の選定（特定の地域に偏ることがないように取り組む）
- ・平成 27 年度事業の効果検証
- ・その他、事業実施に関わる事項

【参加者】20 名

（参加地区：サポーター養成研修会実施地区 10 名、周知広報実施地区 10 名）

(3) 歯と口の健康リーダーによる学校への普及啓発と実態調査について

(4) その他

2-2 歯と口の健康サポーター養成研修会の実施

「歯と口の健康リーダー」が中心となり、「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」（平成 26 年度事業作成資料）を活用し、大学・短大・専修学校における保健担当者等に対し、学校において「学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけ」を行うための取り組みを行う「歯と口の健康サポーター」として育成するための研修会を、地域において合計 2 回行った。

平成 27 年度に周知広報・実態調査を行った学校（24 校）に研修会への参加を呼びかけた。研修会への参加校は合計で 12 校、参加者は合計で 14 名であった。

【研修会内容】

- ・学校における歯と口の健康づくりの意義について（講義形式）
- ・歯と口の健康づくりに関する基礎知識（講義形式）
- ・歯と口の健康づくりに関する意識向上について（ワークショップ形式）

(1) 地域における「歯と口の健康サポーター養成研修会」実施状況

(ア) 圏域名：三島

【開催日時】平成 28 年 11 月 30 日（水）14 時～16 時

【開催場所】高槻市生涯学習センター第 1 会議室

【研修会講師（ファシリテーター）】（順不同・敬称略）

摂津市歯科医師会 公衆歯科衛生・地域生涯歯科保健推進委員 福田 泰明
摂津市歯科医師会 副会長 中西 徹

【参加者】7 名

【参加校】6 校

【研修会の進行表】

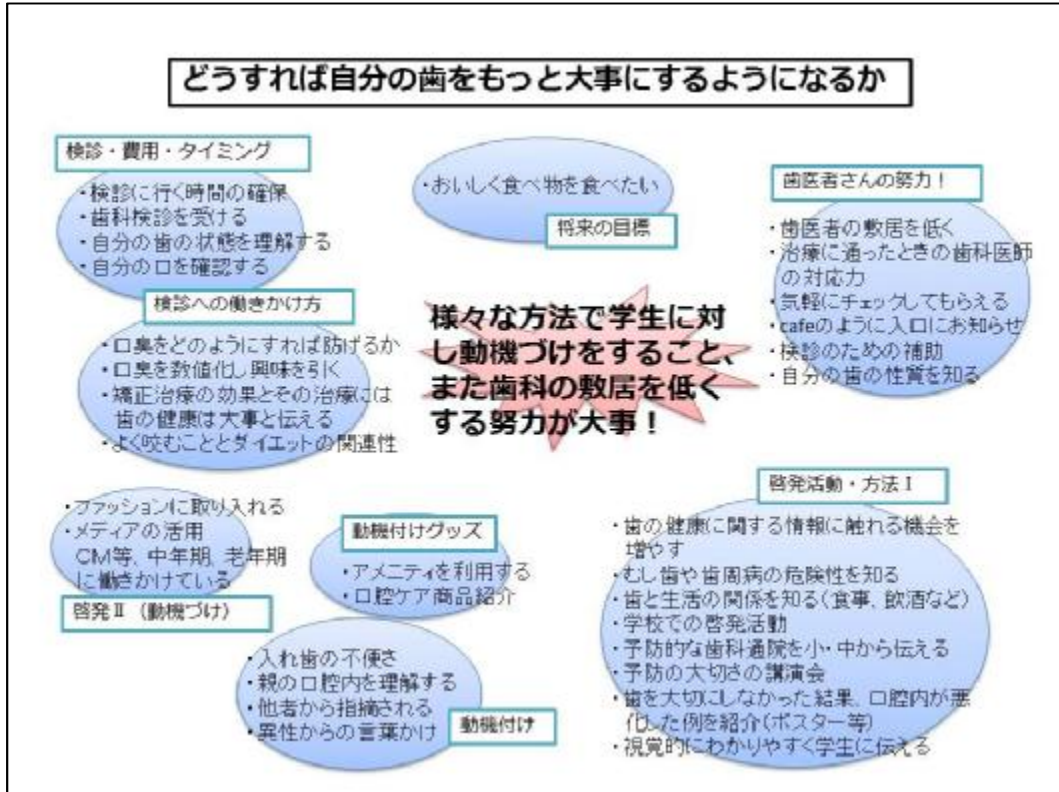
時間	内容
14:00～14:05	開会あいさつ
14:05～14:15	事前説明 1 本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における歯と口の健康づくりの意義について
14:15～14:40	事前説明 2 歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマについて
14:40～14:45	事前説明 3 ワークショップの進め方
14:45～14:50	トイレ休憩
14:50～15:00	アイスブレイク
15:00～15:40	グループディスカッション
15:40～15:55	グループごとの発表、質疑応答、まとめ
15:55～16:00	アンケート記入
16:00	閉会

【グループディスカッションのテーマと結論】

< Aグループ >

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：



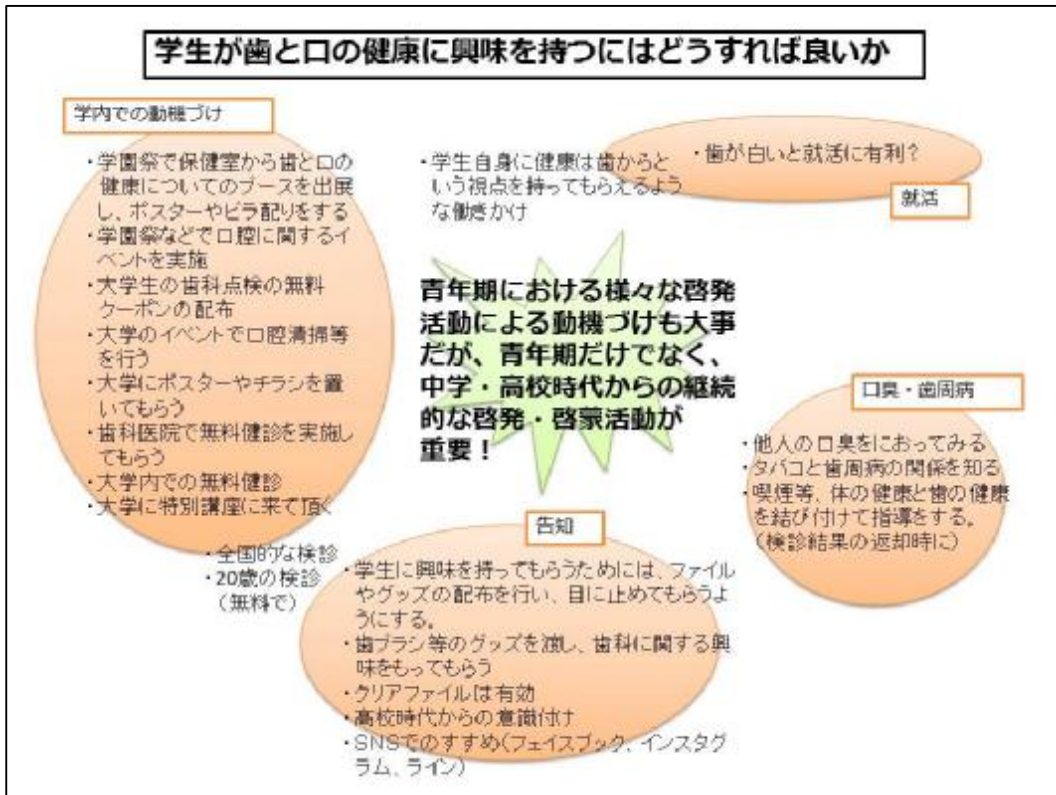
結論：様々な方法で学生に対し動機づけをすること、また、敷居を低くする歯科医院の努力が大事である。

ファシリテーター意見：グループ内では、学生に対しての動機づけについての方法や、歯科医院への要求など、学生、歯科医療従事者双方に対し多数の意見が挙げられた。各学校において歯科健診は現在行われていないが、医科の健康診断の際に歯科の実施を出来ないか、また、学園祭で歯科のブースを出せないか、講演・セミナー等を併催できないか、などといった様々な意見が挙がり、学校でできることを考える良いきっかけになったと考える。

< Bグループ >

テーマ：学生が歯と口の健康に興味を持つにはどうすれば良いか

グループディスカッション成果物（図案化）：



ファシリテーター意見：白い歯や健康な口腔は就職活動にも有利になる等学生への働きかけ、無料健診の実施、学校健診の結果を歯科保健啓発のファイルに入れて返却する、SNSで情報発信をする、など様々な啓発方法が考えられるが、その時期だけに働きかけるだけでは結果に結びつきにくいのではないかという意見が挙がった。そこで、青年期につなげるための中学・高校時代からの継続的な啓発・啓蒙活動が重要になり、若者が自分の口腔内の健康を自分自身のためと意識でき、興味を持てるようになるのではないかと考える。

(イ)圏域名：豊能

【開催日時】平成28年11月24日（木）13時30分～15時30分

【開催場所】豊中市医療保健センター

【研修会講師（ファシリテーター）】（順不同・敬称略）

箕面市歯科医師会 高島 隆太郎

豊中市歯科医師会 尾口 英太郎

吹田市歯科医師会 三木 秀治

【参加者】7名

【参加校】6校

【研修会の進行表】

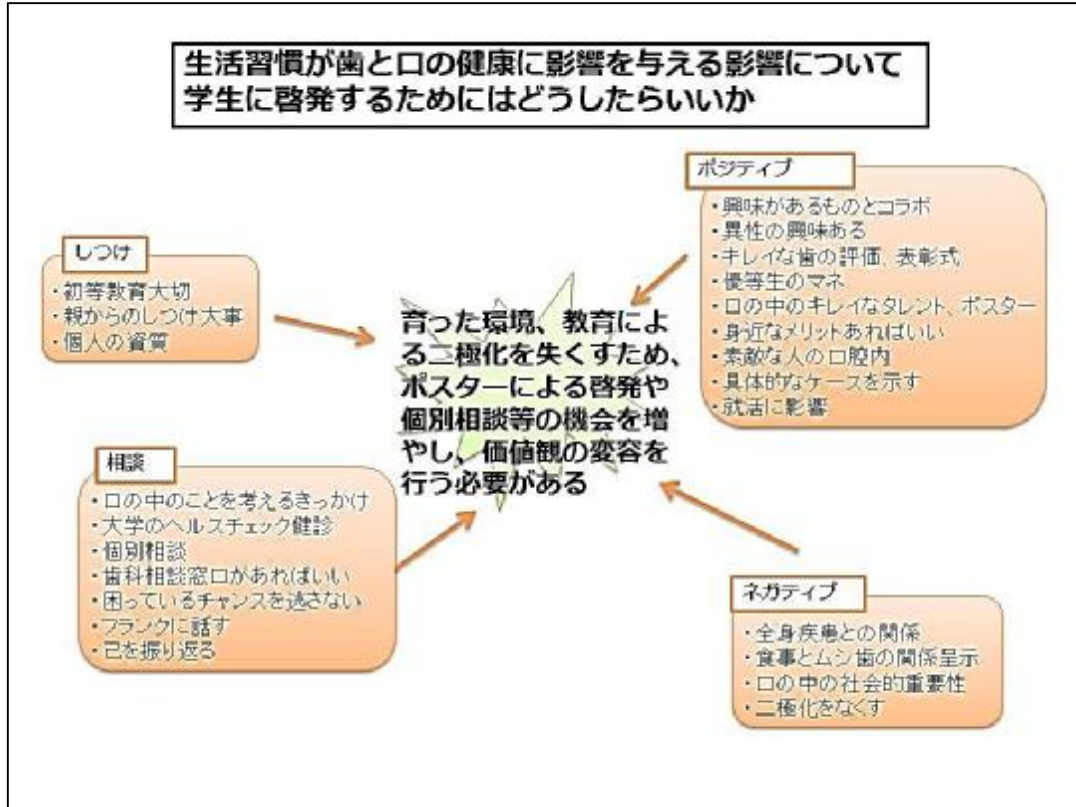
時間	内容
13:30～13:35	開会あいさつ
13:35～13:45	事前説明1 本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における歯と口の健康づくりの意義について
13:45～14:10	事前説明2 歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマについて
14:10～14:15	事前説明3 ワークショップの進め方
14:15～14:20	トイレ休憩
14:20～14:30	アイスブレイク
14:30～15:10	グループディスカッション
15:10～15:25	グループごとの発表、質疑応答、まとめ
15:25～15:30	アンケート記入
15:30	閉会

【グループディスカッションのテーマと結論】

<グループ1>

テーマ：生活習慣が歯と口の健康に与える影響について学生に啓発するにはどうしたら良いか

グループディスカッション成果物（図案化）：



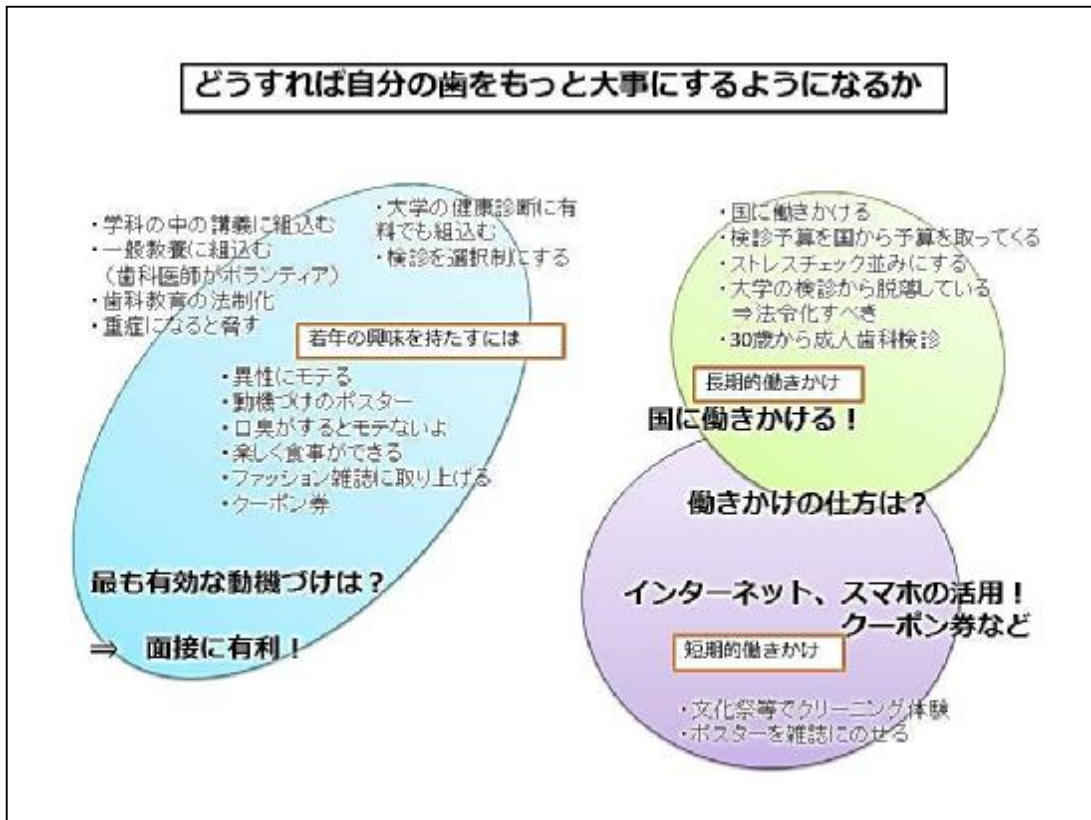
結論：KJ法による討論の結果として、「口腔に関する価値観は育った家庭での教育が大事であり、うまく教育されたものとされなかったものの差が、現に口腔内の状態の二極化という形で表在している。しかしながら価値観は働きかけにより変容できるため、行動を強化するためのポスター、個別相談などの機会を増やして対応する必要がある」という結論に達した。

ファシリテーター意見：6人の発表者より「歯について相談できる場所があることを知らせる」、「歯のキレイなタレントのポスターを掲示して真似したい雰囲気をつくる」、「全身疾患と口の病気の関連性についてアナウンスする」といった活発な発表が行われた。

<グループ2>

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：



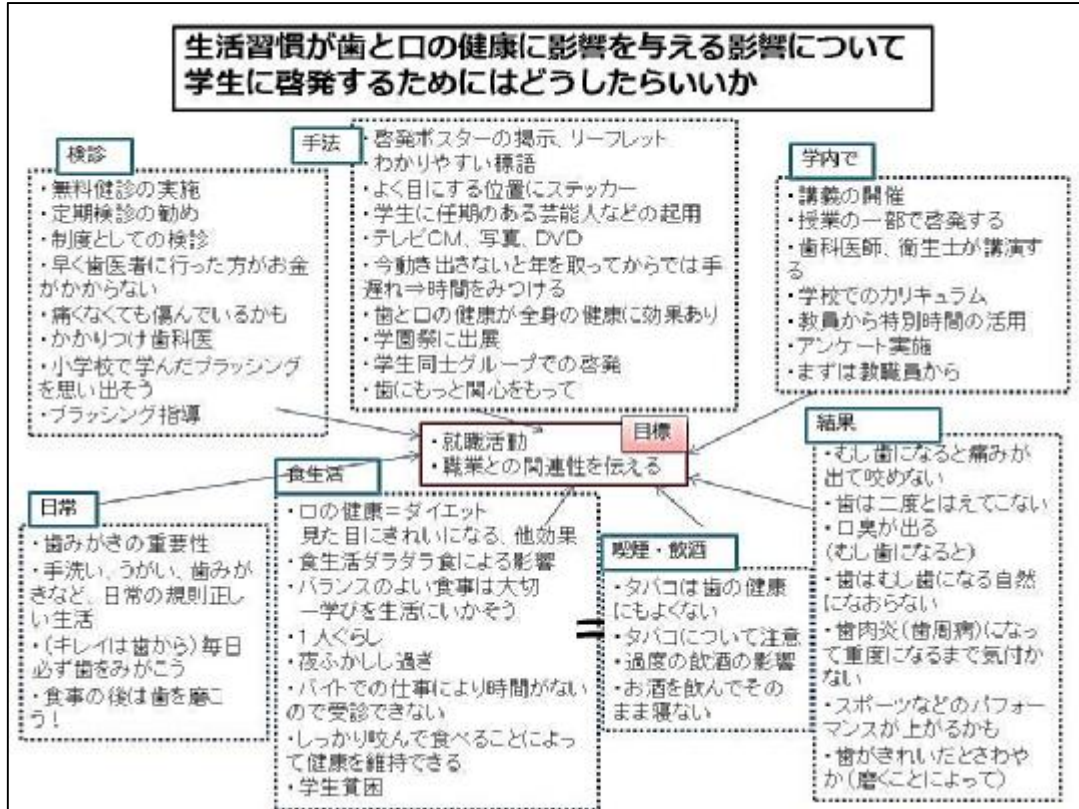
結論：KJ法による討論の結果として、「若者にあつた動機づけが大事であり、歯を大切にすることによって自分の人生において得になるかもしれないと思わせることが重要である。今はポジティブな理由により歯を大切にすることで、結果として将来のリスクにも対応できる」という結論に達した。

ファシリテーター意見：まず、若者には「異性にモテたい」というところが根本にあるという意見が出された。そこを軸に、ではどうしたら歯に意識を持ってもらえるか、それには歯が汚かったり、口臭があると異性に嫌われるということをしかりと分かってもらうような啓蒙活動が大事ではないかという意見が挙げられた。また、就職活動においても綺麗にケアをしている方が有利になる、将来の歯の喪失のリスクを説いても実感がわかないのでは、などの意見が挙がり、活発な議論となった。

<グループ3>

テーマ：生活習慣が歯と口の健康に与える影響について学生に啓発するにはどうしたら良いか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：学生らの歯科健診受診率の向上に対する法整備、公的な健診の要望、また口腔保健活動の啓蒙方法、食生活や喫煙、飲酒など、日常生活における注意点や改善方法等についてディスカッションを行った結果、口腔の健康が就職活動に大きく影響を及ぼすことがある、という内容で啓発を行うことが最も効果的だという結論に達した。

ファシリテーター意見：各参加者に最低3件の意見を出していただくようお願いしたが、それぞれ5件以上の意見を出してくれた。意見提出者の立場を尊重しながら意見の注釈を聞き取り、問題点をグループ分けし、各問題グループに対する意見や対応策を議論した。

(2) 「歯と口の健康サポーター養成研修会」研修会後のアンケート調査結果

表1 学校における歯と口の健康づくりに関する取り組み

取組み	校数	(%)
実施	5	35.7
未実施	8	57.1
未回答	1	7.2
合計	14	100.0

表2 学校で実施した歯と口の健康づくりの取り組みの詳細（複数回答可）

実施した取組み	回答数	(%)
歯科の定期健康診断	0	0.0
歯科の健康相談	1	20.0
学校行事を利用したの歯科普及啓発イベント	0	0.0
その他	4	80.0
全体	5	

表3 研修内容を事前に知っていたか

知識の有無	人数	(%)
ほとんど知っていた	4	28.6
ある程度知っていた	5	35.7
知らないことが多かった	5	35.7
ほとんど初めて知った	0	0.0
合計	14	100.0

表4 研修会や手引書の内容以外で知りたいこと、もしくは、もう少し詳しく知りたいこと

- ・口臭について
- ・舌苔について
- ・酸蝕歯について
- ・予防歯科について

表5 研修による学校での歯科口腔保健の普及啓発の重要性

重要性の認識	人数	(%)
認識した	14	100.0
認識しなかった	0	0.0
合計	14	100.0

表6 普及啓発媒体（クリアファイル）の効果的な活用方法について

(複数回答可)		
配布場所	回答数	(%)
一般定期健康診断	8/14	57.1
就職説明会	5/14	35.7
講義	7/14	50.0
その他	3/14	21.4

表7 学生に対する普及啓発媒体に関する意見

・活用している
・クリアファイルは表か裏どちらかが透明だと使いやすい
・もっと分かりやすいリーフレットでないと学生は手にも取らないと思う
・大切な情報がまとめられており、貴重なファイルだと思う。裏面のセルフケアについてはイラスト付きでもう少し詳しくてもいいと感じた
・半年に一回歯科検診を受けましょう！というようなメッセージがあった方が良い
・Q(質問)はあるがA(回答)がないため、裏面に答えが欲しいと思った
・Q1～Q9で <input checked="" type="checkbox"/> がいくつ入ったら具体的にどうなるのかを提示した方が良い

表8 今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みが実施出来るかについて

取り組みの実施	人数	(%)
可能	13	92.9
不可能	1	7.1
合計	14	100.0

表9 今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みについての詳細

(複数回答可)		
検討できそうな取り組み	校数	(%)
普及啓発の機会増加	6/14	42.9
行事等での啓発コーナーの設置	9/14	64.3
大学独自のネット配信	3/14	21.4

2-3 歯と口の健康リーダーによる学校への周知広報と実態調査

大阪府における8地域の二次医療圏のうち、平成28年度は北河内医療圏と中河内医療圏に所在する大学・短大・専修学校に対して、「歯と口の健康リーダー」が大学・短大・専修学校（合計24校）に赴き、周知広報及び実態調査を行った。

また、併せて平成29年度に実施予定の「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した。

(1) 周知広報

【周知事項】

- ・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
- ・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法

(2) 実態調査

【調査項目】

- ・学校における保健担当者の有無及び職種
- ・学校での歯科健診実施状況
- ・その他、必要な事項

【実態調査結果】（以下、3月23日現在、17校集計）

表10 学校における保健担当者配置の認識の有無

認識	学校数	(%)
有	17	100.0
無	0	0
合計	17	100.0

表11 保健担当者の職種別配置状況（複数回答可）

配置職種	全体		(内) 大学		(内) 短大		(内) 専修学校	
	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)
医師	6	35.3	4	33.3	1	25.0	1	100.0
看護師	14	82.4	10	83.3	4	100.0	0	0.0
保健師	3	17.6	3	25.0	0	0.0	0	0.0
その他	6	35.3	4	33.3	2	50.0	0	0.0
全体	17		12		4		1	

表 12 「歯と口の健康リーダー」の周知に対する学校保健担当者の反応

設置	学校数	(%)
良い	14	82.4
普通	3	17.6
悪い	0	0.0
合計	17	100.0

表 13 学校での歯科健診実施状況

歯科健診	学校数	(%)
有	2	11.8
無	15	88.2
合計	17	100.0

2-4 学生に対する歯と口の健康づくり意識調査の実施

事業評価に当たり、経年的に学生の変化を調査するため、アンケート調査を実施した。

3 事業評価

平成 28 年度事業では、平成 27 年度に歯と口の健康リーダーによる周知広報を実施した 24 校のうち、12 校 14 名の学校担当者が歯と口の健康サポーター養成研修会に参加された。

研修会でのグループディスカッションでは、家庭における養育環境や、小・中学校等、少年期からの継続的な啓発活動が重要だが、価値観は外部からの働きかけにより変容できるものであるため、様々な方法での動機付けが必要であり、若者が特に興味を持つような就職活動等に絡めた啓発活動が効果的ではないかという意見が挙げられた。グループディスカッション内で、就職活動に見立てたクリアファイルは有効だという意見が挙がる一方、研修会後のアンケート調査では分かり辛いという意見もあり、改善の検討が必要である。また、学校の SNS 等での情報発信についても意見が挙げられ、今後の普及啓発の手法として取り入れていくことも有効であると考えられる。

研修会を受け、すべての参加者（14 名）が、学校での歯と口の健康づくりの取り組みの重要性について認識し、参加者 14 名のうち 13 名が、学生に対する歯科保健の普及啓発に関する取り組みが可能であり、9 名が学校行事等での啓発コーナーの設置について検討できそうであると回答した。このアンケート調査結果から、「歯と口の健康サポーター」が、学校において学生に対して意識づけを実践することが期待できる。

また、今年度も昨年度と同様、府内に所在する大学・短大・専修学校 24 校に対し、歯と口の健康リーダー（地域保健担当歯科医師）が学校での歯と口の健康づくりについての取り組みを調査するとともに、平成 29 年度に実施予定の「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した。

歯と口の健康リーダーによる調査の結果（平成 29 年 3 月 23 日現在の集計）、平成 28 年度に「歯科健診を実施している」学校が 17 校中 2 校（平成 26 年度調査：48 校中 0 校、平成 27 年度調査：24 校中 0 校）であることが分かった。また、「歯と口の健康サポーター養成研修会」でのアンケート調査の結果、学校で「歯と口の健康づくりに関する取り組み」を実施した学校が 14 校中 5 校（平成 26 年度調査：7 校中 1 校、平成 27 年度調査：16 校中 6 校）という実態を把握できた。歯科健診を実施していると回答した学校は、希望者に対し年 1 回の歯科健診を実施しており、また、本事業に関しても積極的に協力するなど、学生への口腔保健啓発活動に注力していることが伺えた。しかしながら、平成 26 年度からの調査結果を鑑みると、学生が高等教育終了後に「歯と口の健康」に関して意識を持つ機会が少ないことがわかる。

以上のことから、本事業は青年期において歯と口の健康についての意識付けの機会として有用だと考えられるが、今後は「歯と口の健康サポーター」が学校で歯と口の健康づくりに関する取り組みを実施することによる学生の意識変化の状況についても評価していくことが望まれる。